

「表現の方法」

3年 N.T

英語は二十六文字のアルファベットを使って出来ているのに対し、日本語はひらがなだけで五十文字近くあり、それに加えカタカナ、漢字と使う文字の多さでは英語よりはるかに多いです。私達が英語を勉強するとき難しいと感じる人が多いと思いますが、海外の人が日本語を勉強するときかなり難しく感じるはずです。

普段、あたりまえのように使っている日本語。日常的に使っていても日本語って難しいと感じる瞬間があるのではないのでしょうか。例えば敬語。英語にはない敬語は相手への敬意を表す言葉です。私もきちんと使えていない気がします。注意して聞いていると公の場で大人の間違った敬語を耳にすることがあります。

他にもいろいろな難しさがあると思いますが私は今、日本語には違う難しさがあると思います。これは私だけが感じる事なのかもしれないですが、最近、略語などが言葉が増え過ぎて意味の分かりにくいものがあるということです。

私は略語とかインターネットの流行語とかに疎くて同級生や先輩の口から飛び出す略語などにはついていけないことがありました。

去年の夏休み明けの部活のことです。私の誕生日が八月の終わりなので先輩に

「誕プレ何もらった？」

と聞かれました。そのとき私の頭の中はハテナマークでいっぱいでした。たぶん皆さんはすぐ意味が分かるでしょう。これは

「誕生日プレゼント何もらった？」

だと。私はどのように思ったか分かりますか。誕プレ？ナンプレと似ているな。ナンプレの仲間かなとか思っていたのです。誕プレ、誕プレと心の中で繰り返すうちに意味が分かり、そのことを友人に笑われました。最近よく耳にするのは「じわる」です。初めて耳にしたとき思わず、

「じわるって？」

と聞き返してしまいました。後で意味は分かりましたが他にも沢山の略語があります。ハッピーバースデー、略してハピバ。何か言いにくいなと思っていました。ブサイクだけどカワイイ、ブサカワとかキモいけどカワイイ、キモカワとかぱっと頭に浮かぶのはそれくらいですがたぶん他にもあるでしょう。

そもそもキモいというのももともとは「気持ち悪い」を省略した言葉だと思います。キモいという言葉もよく耳にする言葉です。辞書に載っていてもおかしくないくらい浸透している言葉だと思います。

またウザいという言葉もすごくよく耳にする言葉です。ですがこれはもとは八王子辺りの方言だったそうです。方言が若者言葉として広まったのです。他にヤバいもよく耳にします。辞書には危ない、都合が悪いという意味しかありませんが沢山の意味で使われていま

す。では何故これらの言葉がよく使われるのでしょうか。それは言いやすく、いろんな場面で使えるからでしょう。

何気なく使う言葉は簡単に口に出来る分、自分の気持ちを細かく表現出来なくなるのではないかと思います。「キモい」「ウザい」「ヤバイ」の一言で終わるのはせっかく沢山の言葉を使えるのにもったいない気がします。日本語の難しさはもともとある日本語の他、外来語など沢山の言葉の意味を理解して使い分けることだと思います。間違った使い方をすれば恥をかくし、口から出た言葉は戻ってきません。だからと言って簡単な言葉に頼ってしまえば感じたことを鮮明に伝えられません。より深いところで思いや感動を伝え、共有するためにも沢山の日本語を知ることは表現の幅をぐっと広げる力になると思います。便利で簡単な言葉も使いつつ少し抑えて自分の言葉で表現することも大切にしたいです。